遊戯王GXの世界に転生した物語（意外とそのまんまな題名）

四季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遊戯王ＧＸの世界に転生した物語（意外とそのまんまな題名）

【Ｎコード】
Ｎ６３０４Ｙ

【作者名】
四季

【あらすじ】
「今日、俺は遊戯王の世界に転生した」
何が言いたいのかわからないとは思うが気にするな、俺も思考が追いついていない。
とりあえずわかるのは、これからが楽しみだってことだ・・・・・。

プロローグ

「知らない場所だ・・・・・」

気が付いたら俺は、真っ白い空間にいた。

・・・おかしい、俺は確かに家で遊戯王のデッキを作っていたはずだ。

ちなみに俺の名前は不知火遊夜。高校2年だ。

少し戸惑いながら周りを見渡していると、なんかものすごいイケメンが突っ込んできて恐ろしい速さ（普通に見えなかった）で土下座した。

「どうも、すいませんでした！！！！！！！！！」

「・・・・・は？」

いきなりの展開過ぎてまったくわからない。

とりあえずどういうことなのかを青年に尋ねてみた。

「なあ・・・どういうことだ？」

「じ、実はな・・・俺は神様なんだ！」

まずはそこからブッ飛んでますね。

「実は書類整理をしてたんだが暇でね、寝ていたら・・・・・」

「ね、寝ていたら・・・・・？」

「君の書類に涎が付いて汚いと思って捨てたら、君が死んじゃった☆」

・・・・・へ？

「いやだから書類を捨てたら偶々君ので、その紙は君の人生が書いてあって、捨てたら死んだだってこと」

「うそだろぉ！？」

「いえ、本当です（キリッ）」

ええ・・・・これからどうしろと・・・・・。

「特に驚いたり怒ったりしないことに俺は驚いた。君には特例として二度目の人生を歩んでもらうことになったよ」

「そうなんですか？」

「うん。世界は・・・・・・・」

どこになるんだろうか？

二次創作ではアニメの世界が普通だが出来れば元の世界が嬉しい・・・・って無理か。

「空いているのは遊戯王の世界だけだね。どの時代に行きたい？カットビング？シンクロ？それともガッチャ？」

「できればガッチャで！」

即答してしまったが悪くはないと思う。

だって、面白そうじゃないか！！

「うん、じゃあ、チートはどうする？」

うーん・・・そんなのは特にいらないし・・・・・。

「それじゃあ、生前に持っていたカードを持って行きたいな」
「持っていけるのは１００００枚が限界だけど？」
「じゃあ、必要なのを教えるから持ってきてもらえると嬉しいです」
「じゃあ、この紙に必要なものを書いて」
「了解」

うーん・・・俺が使ってたのはこれとこれとこれと・・・・あとこれもだな。
あまりは・・・・・・・。

～5時間後～

「決めました」
「大分かかったね」
「ええ、枚数が枚数ですから」
「じゃあ、準備はいいかい？」
「はい」

これで文句はないはずだ・・・たぶん。

「君の性別は男、年齢は零から・・・まずはここはＯＫ？」
「はい」
「名前は今と同じ、両親は・・・・まあ、どうなるかは不明」
「はい」
「あとは・・・・まあ、こんなものかな？じゃあ、行くよ」

これから行くのか・・・少しどきどきするな・・・・。

・・・と思っていたら地面にだんだん体が沈んでいきました。

「うぇ！？」

「じゃ、がんばってね～」

こんな始まりだが、ここから俺の新しい人生がスタートしたのである。

第一話／もう転生から１０年が経ちました・・・え？早い？（前書き）

え？早い？

気にしたら負けですよ。

本編に入るために、この話が終わった後、また時間が飛びます。

ご了承ください。

では、一話目、どうぞ！

第一話／もう転生から１０年が経ちました・・・え？早い？

生まれてからもう１０年が過ぎました。
え？早い？

・・・お前ら、赤ちゃんの生活とか見て面白いと思うか？思わないだろ？
・・・と言う訳である。

お父さんとお母さんは・・・・・事故で去年亡くなった。
あの時は年甲斐もなく思い切り泣いたな・・・・・。

今は早乙女さん家にお世話になってます。
家？それは俺の家に住んでるけど。

５歳くらいにテレビを見て、ＫＣが写ってたときはかなり興奮しました。
だって、ＫＣだよ？遊戯王の世界に来たって言う実感がもてるじゃないか。

「・・・ちなみに今は、お世話になってる早乙女さんの家のレイちゃんの相手をしています」
「・・・遊夜兄、誰に言ってるの？」
「気にしたら負けだよ」

そんな会話をしながら話していたら、郵便が届いた。

ピンポーン！

「はーい」
「この荷物に判子お願いしまーす」
「はい」

判子を押して受け取ると、神　進と書いていた。
・・・カードか。やっときたな。

中身を見ると、確かに俺が頼んだカード達だった。
・・・やっとデュエルができるな・・・・・。

そう思い、嬉しくなった。

いや、カード持ってないわけじゃないんだよ？ただ、親からもらったカードなんだけど、なんか危険なんだ。わからないけど。

「よし、レイ、デュエルしようか！」
「でも遊夜兄強いもん・・・・」
「だ・か・ら、レイも強くするんだよ、今から」
「本当！」

メチャクチャ目をキラキラさせているｍｙ従兄妹。
正直言って・・・・可愛いです。

「じゃあ、さっさと組み上げて戦うか！」
「うん！」

～組み上げ始めて３時間後～

「やっとできた・・・・・な」
「うん・・・・長かったね・・・・・」

そりゃあ、俺たちの時間で言えばこれは長いだろう・・・・・。
「時間もないから、明日またやろう？」
「うん・・・仕方ないね・・・・・」
また・・・シュンとしてる・・・・・。
そんなレイはいやだな・・・・。
俺はレイの頭をくしゃくしゃと撫でた。
「うわ！？何するの遊夜兄！」
「これからは何時でも相手してやるからそんな顔するなよ・・・な？」
「うん！うんうん！！」
こうして、この一日は終わった。
～次の日～
「遊夜兄、きたよ！！」
早朝８時、宣言どおりにｍｙ従兄妹はやってきた。
ちなみに今日は平日だが、今日明日明後日明々後日は休みなのである。
昨日は日曜日、このあと３日ほどゴールデンウィークが残っている。
そして、ゴールデンウィーク明けは・・・なんと俺の通う学校の創立記念日なのだ！
ふはははは！休みとはこれほどよいものだったのか！！

「遊夜兄？はやくデュエルしようよ～」
「ああ、うん。わかった。わかったから揺らさないでくれ！？」
もう正直言って酔いそうです・・・・・。
「ご、ごめんなさい」
「いいよ・・・それよりもデュエルだよね？いいよ、やろうか」
こうして俺とレイはデュエルしたわけだが、
俺が勝ち、レイがもう一回もう一回！と言うので、結局一日中やっていた。
・・・正直言って疲れた・・・・・。

第二話／試験当日・・・やっぱり飛びすぎ？（前書き）

連続投稿の２日目。
今回はデュエルありです（当然か）。
では、本編どうぞ！

第二話／試験当日・・・やっぱり飛びすぎ？

またあれから5年が経った。
早い？そんなのご都合主義だ。なんとかなる。
ちなみに今日は受験日なんだが・・・・・。

「簡単すぎる・・・・・」

テストを開始２０分ほどで終わらせてしまった。
二次創作でブルーアイズ関連が多いのはテンプレだったが、まじであるとは思わなかった。

一問目、通常モンスターで一番攻撃力の高いモンスターは？
二問目、青眼の白龍の攻撃力・守備力を答えよ。
三問目、青眼の白龍の・・・・・・・ｅｔｃ．ｅｔｃ・・・・・・。

正直言って脱帽しました。

でも３０問中の後半十問は普通でしたよ？

二十一問目、融合カードの特徴を答えよ。
二十二問目、巻き戻しについて答えよ・・・なんかがいい例だ。

暇すぎてたまらん。
正直言ってやることがないんだが・・・・・。
寝るか・・・。

～1時間後～

「う～ん、よく寝・・・た？」

気が付いたら皆帰ってしまっていた。
こんなところに一人でいるのって悲しいんだぞチクショー！

「帰るか・・・・・」

とりあえず、今日は帰って英気を養うとしよう・・・・・。

～1週間後～

ふ・・・フハハハハハハハハ！やっとこの日が来たか！！
キャラが違う？
この日のデュエルが楽しみなんだよ！

「さてと、着替えて時間・・・は・・・・・？」

8：30・・・・・・。

「ち、遅刻だぁあああああああああああああああああああああああ！！」

俺の行動は早かった。
すぐさまデッキを持って家を出て、海馬ドームへと向かった。

「もうとっくに俺の番終わってない！？」

ちなみに俺は二番である。

～１０分後～

「や、やっとついたぜ・・・・・。受験番号２番、結城遊夜、ただいま到着しました」

「うん？確認した。中に入れ」

中に入ると、丁度十代のデュエルが終わったところだった。

「ガッチャッ！楽しいデュエルだったぜ、先生！！」

「そんな、ワターシがこんなドロップアウトボーイに負けるナンーテ」

クロノスが、すごく落ち込んでいる。まぁ、バカにしていた奴に負けるのはくやしいけどあんなにかと、考えていると。

「そこのドロップアウトボーイも受験生ナノーネ？」

「はい。受験番号２番、結城遊夜です」

「なら、君の相手も私がするノーネ（受験番号２番なら倒せば汚名返上ナノーネ）」

クロノスはたぶんこれで汚名返上ナノーネとか思ってるだろうけど、まあいい。

デッキは・・・・あった・・ってこれかよ！？

下手なのだしたら危ないけど・・・まあ、なんとかなるだろ。

「準備はいいノーネ？」

「はい」

デッキをディスクに入れて構える。

「「決闘（デュエル）（ナノーネ）！！」」

クロノス：４０００
遊夜：４０００

「先行はワタシがもらうノーネ！ワタシのターン、ドロー」

クロノスがデッキからカードを引く・・・思うんだけどあのディスクって使いずらそうじゃない？

「ワタシはカードを二枚伏せて、大嵐を発動するノーネ！」

このパターンってことはおそらくあの伏せカードは・・・・・。

「伏せカードは黄金の邪神像ナノーネ。よって効果により、邪神トークンを二体召喚ナノーネ」

やっぱりか。

たぶんあれを生贄にしてアニメと同じように古代の機械巨兵（アンティークギガーレム）を出す気か？

「邪神トークン二体を生贄に、ワタシは古代の機械巨兵（アンティークギガーレム）（攻３０００／守３０００）を召喚するノーネ」

像のようなトークンが地面の中に引きずり込まれるように消えていくと、地面から古く錆びた部品で出来た巨大な機械の人形が現れた。

やはりでてきたか・・・・・古代の機械巨兵（アンティークギガゴーレム）・・・・・！！
周りは「終わった・・・・・」とか「勝てるわけない」とか言ってるがまだまだだぜ？

「ワタシはカードを伏せてターンエンドナノーネ（伏せカードは聖なるバリアミラーフォースナノーネ。攻撃してきたら返り討ちナノーネ）」

クロノス（ターンエンド時）
ＬＰ：４０００
手札：１枚
場：モンスター：古代の機械巨兵　×１
　伏せカード：１枚

「俺のターン！ドロー！！」

たぶん、いや絶対あの伏せカードは攻撃反応型だろう。
・・・ならば、

「俺は手札から、速攻魔法サイクロンを発動、その伏せカードを破壊する！」
「ノー！？ワタシのミラーフォースが！？」
やはりミラーフォースだったか・・・危ない危ない。
「俺は手札からフィールド魔法Ｓｉｎ　Ｗｏｒｌｄを発動する」

おそらくこのカードでわかっただろうが、今回のデッキはＳｉｎデッキだ。
そして、今手札にあるのは・・・・・！

「っは！このターンで決めるぜ！！」
「ワタシの場には古代の機械巨兵がいるノーネ！そう簡単には行かないノーネ！」
「ところがギッチョン！俺はエクストラデッキにいるサイバー・エンド・ドラゴンを除外してＳｉｎサイバー・エンド・ドラゴン（攻４０００／守２８００）を特殊召喚する！」
俺の場には奇妙な仮面をつけたサイバー・エンド・ドラゴンが現れる。

「で、でででデーモ？攻撃力は高くてもライフは残るノーネ」
「残念だが残させないぜ？速攻魔法リミッター解除、発動！」
Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴン　攻４０００→８０００
念のために入れといて正解だったな。
これで削りきれる。

「な、ななななな・・・・・！！」
「これで終わりだ！Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴンでダイレクトアタック！エターナル・エヴォリューション・バースト！！」
クロノス　ＬＰ４０００→－１０００
「ペペロンチィイイイノォオオオオオオオオオオオオオオ～～～！！！」

「俺の・・・勝ちだ！」

ワンターンキルなんて久しぶりにやったぞ？

結構きつかったが。

―ワァアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！！

直後、歓声が起こった。

「すげえ」「あの状況で勝った！？」などいろいろな声が聞こえる。

さすがにここにいるのは恥ずかしいので退散することにした。

結果はどうなるんだろうか・・・・・？少し楽しみである。

俺はこれまでにないほど軽い足取りでそこを後にした。

第二話／試験当日・・・やっぱり飛びすぎ？（後書き）

今回の最強カードは『Ｓｉｎ　サイバー・エンド・ドラゴン』。
－－－－－－－－
効果モンスター
星１０／闇属性／機械族／攻４０００／守２８００
このカードは通常召喚できない。
自分のエクストラデッキから「サイバー・エンド・ドラゴン」１体をゲームから除外した場合のみ特殊召喚できる。
「Ｓｉｎ」と名のついたモンスターはフィールド上に１体しか表側表示で存在できない。
このカードが表側表示で存在する限り、自分の他のモンスターは攻撃宣言できない。
フィールド魔法カードが表側表示で存在しない場合このカードを破壊する。
－－－－－－－－

遊「攻撃力が４０００と高く、出しやすいモンスターだ
　それによって高確率でＳｉｎ　スターダストと共に入れられてることが多いな」
ただし、フィールド魔法がないと破壊される点に注意だな。
遊「攻撃名は『エターナル・エヴォリューション・バースト』だぜ！」
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
まさかの主人公のデッキは【Ｓｉｎ】という・・・・・。

遊「意外と少なかったからな、使う奴」

実は最初は別なデッキを使う予定だったのですが、使う人が多すぎたのでこっちにしてみました。

遊「最初は何の予定だったんだ？」

最初はＢＦの予定だった（笑）

遊「鬼畜だなオイ！」

ーーーーーーーーーー

見てくださってありがとうございました。

誤字・脱字、プレイングミスなどありましたら、教えてくださると助かります。

遊「感想もいつだって待ってるぜ」

これからもこの作品をよろしくお願いします！

キャラクター設定／結城遊夜（前書き）

キャラ設定第一回目は主人公です。

遊「ふーん・・・・・」

では、どうぞ！

キャラクター設定／結城遊夜

キャラクター

・主人公

◆名前

（転生前）不知火　遊夜

（転生後）結城　遊夜

◆性別

男

◆身長

１６８ｃｍ

◆体重

５２ｋｇ

◆年齢

１７歳（転生前）→０歳（転生後）→１６歳（本編開始時）

◆外見

茶髪に茶色の目。

イメージはハルヒの少し背の縮んだ古泉一樹。

◆性格

面倒なこと・理不尽なことが大嫌い。

また、弱いものいじめも嫌いで、アニメでカイザーを見てからはリ

スペクトデュエルをするようになった。
その所為で全力で戦ったことが殆どない。

◆使用デッキ
【Ｓｉｎ】・・・Ｓｉｎパラドクスドラゴンなどを中心としたデッキ。
序盤は主にこれを使う。
【ＢＦ】・・・ＢＦで構成された言わずと知れた鬼畜デッキ。
本気で戦ったときに使用される予定だった。
前世でのフェイバリットデッキ。
【？？？】・・・登場後に更新予定。
【？？？】・・・上と同じく登場後に更新。

◆所属
ラーイエロー

第三話／到着！デュエルアカデミア！！（前書き）

今回からあとがきにて、デュエルがあった場合は今回の最強カード、なかった場合はミニドラマ（？）をやってみることにしました！

遊「ほんとに出来るのか？」

う・・・・・。

や、やってみせるさ！

と、言うわけで本編の後のミニドラマも見てくれるとうれしいです。

では、本編どうぞ。

第三話／到着！デュエルアカデミア！！

今、俺はアカデミアへ向かう船に乗っている。
着ている制服が黄色いことからわかるように、俺はラーイエローだ。
まあ・・・オシリスレッドよりは巻き込まれないし普通だからいいかな・・・・・？

ちなみに2番だった理由は三沢と違い公式大会に出ていないからだとか・・・・・。
そこらへんはアニメ基準じゃないんだな。意外だった。

「お～い！！」
「ん？」
「お前、俺の後にあの先生倒した奴だろ？俺とデュエルしようぜ！！」

まさかの遊城十代とのエンカウント。
俺、そんなに目立ってたかな・・・・・・・？

「その前に、名乗れ。俺はお前の名前を知らん」
「え？ああ・・・俺は遊城十代、デュエルしようぜ！！」
「名乗られたからには名乗り返さないとな・・・俺は結城遊夜だ。
デュエルはアカデミアについてからでいいか？今はデッキの調整中でな」
「うーん・・・それなら仕方ないか・・・・・。じゃあ、あっち着いたらデュエルしようぜ！」
「ああ」

そういって俺らは別れた。正直言って何もしていないのに疲れた。

やっと行ったか・・・・・。
そう思っていた俺のところにまたしても原作キャラがやってきた。

「やあ、2番君」
「君は・・・・・？」
「おっと、俺の名前は三沢大地だ。君のデュエルは実に興味深かったよ」
「それはどうも・・・・俺は結城遊夜だ。君の事は耳に入れているよ」
「君ほどの人に覚えてもらっているなんてね・・・。同じ寮としてこれからもよろしく頼むよ」
「俺はそれほど凄くないんだが・・・・・これからよろしくな三沢」
「ああ。そろそろ着くからな・・・・じゃあ、また寮で会おう」
「ああ」

こうしてまた俺は別れた。
てか、原作キャラと会うの多すぎじゃないか？あっても一人だろう？
まあ、別にいいが。
それにしても、三沢はアニメを見てたときの印象と違うな。
なんというかまあ・・・・・気さくな奴だった。少なくとも悪い奴じゃあない。
簡単に言うとだな・・・・・・・なんで空気化したのかがわからない。いい奴じゃないか。

～数時間後～

今の今まで入学式を行っていた。

・・・・・どこの世界でも、校長の話って長いんだな・・・・・。

そうしみじみと思った。
ちなみに十代は立ったまま寝ていた。

・・・器用だな。

ともかく、今俺はイエロー寮の前にいた。
お洒落なペントハウス調のそれは、ブルーに比べれば質素だが、暮らすにしては十分すぎると思う。

割り当てられた部屋に行くと荷物は既に届いていた。

中は意外に広く、快適に過ごせそうだった。

ちなみに、色分けとしては、オベリスク・ブルー＞ラー・イエロー＞オシリス・レッドの順で成績がいい。
さらに格差もあり、宮殿のような寮にフルコースの寮食が出るオベリスクと3人相部屋で木造モルタル2階建ての古アパートであり、食事も序盤はご飯・みそ汁にメザシという粗食では、天と地ほどの差もある。

正直言ってひどい。

っていうか、二次創作でいきなりブルーからっておかしくないか？
設定では高校からだと必ずイエローかレッドのはずなんだけど・・・・・？

まあ、関係ないな。

「時間になるまで寝るか・・・・・？」

とりあえず、俺は時間まで寝ることとした。

第三話／到着！デュエルアカデミア！！（後書き）

ミニドラマ　／　あの後・・・。

～遊夜が寝始めてから3時間くらい後～

「おい、起きろよ。歓迎会始まるぞ」

「ん～あと12時間～」

「つまり明日の朝まで起きない気か！？」

「むにゃむにゃ・・・・・」

「頼むから起きてくれ～～～～～～～～！！」

・・・続く・・・・・？

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

遊「今回なんでこんなことはじめようと思ったんだ？」

・・・いやあ、面白そうだし、あとがき何も書かないと寂しいから、他の作品で見たとき書いてみようかなぁって思ったからかな？

遊「つまりは他の作者さんのアイデアをいただいたと？」

ＹＥＳ。

遊「Ｓｉｎトゥルース・ドラゴン・・・・・・」

遊夜くん？そんなモンスター召喚してどうする気かな・・・・・？

遊「あいつを消し飛ばせ！」

なぁにこれぇ・・・・・・・・・・・・ギャーーーーーーーー！！

→

作者は天に召されました。

遊「ふう・・・・今回も見てくれてありがとう。

それからｓｉｒａｓｕ様、感想ありがとうございます。

また次回会おうぜ！！」

感想・・・・・待ってま・・す・・・・・・（バタッ）

第四話／対決！ＶＳ三沢（前書き）

今回の相手は三沢です。

いったい、どんなデッキを使うのでしょうか？

本編へＧＯ！

第四話／対決！ＶＳ三沢

昨日・・・・結局あのあと三沢に起こしてもらい、なんとか歓迎会に間に合った。
・・・後で三沢になんかお礼しとかなきゃな・・・・・。

「お・・・・・三沢！」
「ん・・・・・？ああ、遊夜か。何のようだ？」
「いや、昨日の礼をしたくてね。探してたんだ」
「礼？」
「そう、だからデッキ見せてくれないか？」

どのデッキを使うかによって渡すカードを変えることになるからな。
・・・いったい三沢はどんなデッキを使うのだろうか？

「え？うーん・・・・・。
なら、デュエルしないか？デュエルで見極めればいいさ」
「その方法があったか・・・・。
いいだろう、デュエルだ」
「今から１０分後、寮近くの庭だ」
「わかった」

これから十分後、三沢とデュエルすることになった。
・・・勝てるかな？

「まあいい。ただ、戦い抜くだけだ」

―ただ、それだけだ・・・・・。

～１０分後～

「準備は言いか遊夜！」

「問題ない、いくぞ！」

「「決闘（デュエル）！！」」

三沢：４０００
遊夜：４０００

「今回は先行は俺がもらう！俺のターン、ドロー！！」

引いたのは・・・Ｓｉｎ　トゥルース・ドラゴン。
正直言って今の状況じゃ特に何も出来ないようなモンスターだ。

「カードを２枚伏せて、魔法カード、テラ・フォーミングを発動する！
　手札に加えるのはＳｉｎＷｏｒｌｄ！」

これで手札は４枚。

「カードを裏守備表示で召喚してターンエンド！」

遊夜
ＬＰ：４０００
手札：３枚
場：モンスター：裏守備表示　×１
　伏せカード：２枚

「俺のターン！ドロー」

三沢のターンか・・・。
ちなみに俺の伏せカードは激流葬とサイクロンである。
たぶん、ほとんどのことに対応は出来る・・・はずだ。

「俺は、Ｅ・ＨＥＲＯエアーマン（攻１８００／守３００）を攻撃表示で召喚！
　エアーマンには、サーチ効果がある。俺は、Ｅ・ＨＥＲＯフォレストマン（攻１０００／守２０００）を手札に加える！」
「この瞬間！リバースカード激流葬を発動！場のモンスターをすべて破壊する！！」

大きな波により、場のカードが破壊されていく。

「そして、俺のモンスターはクリッター（攻１０００／守６００）！
　よって効果によりＳｉｎパラレルギアを手札に加える！」

準備は出来た。
ここからは俺のターンだ。

「っく、俺はカードを伏せてターンエンド」
「その瞬間に、俺は伏せカードサイクロンでその伏せカードを破壊する」
「なに！？」
「そして、俺のターンドロー」

三沢

手札：５枚
ＬＰ：４０００
場：なし

引いたカードは・・・Ｓｉｎスターダスト・ドラゴン。

「俺は、フィールド魔法ＳｉｎＷｏｒｌｄを発動。・・・三沢、新しいＳｉｎを見せてやるよ。
俺は、Ｓｉｎパラレルギア（攻０／守０）を通常召喚！
これがこのデッキのエースだ！手札のレベル８Ｓｉｎスターダスト・ドラゴンに、レベル２Ｓｉｎパラレルギアをチューニング！！」
「チューニング？なんだそれは？」
「今から見せてやるよ・・・・よく見てな！！」

場に出てきたギアのようなものは、二つの輪になり白い龍を囲んだ。

「次元の裂け目から生まれし闇、時を越えた舞台に破滅の幕を引け！シンクロ召喚！Ｓｉｎパラドクス・ドラゴン（攻４０００／守４０００）！！」
「こ、攻撃力４０００のモンスター・・・・・！？」
「ああ、ぴったりだろ？・・・・・・バトル！！」

この一撃で終わらせる。

「Ｓｉｎパラドクス・ドラゴンの攻撃、ダイレクトアタック！！」
「そんな馬鹿なぁあああああああああああああああ！！」

三沢：４０００→０

「俺の、勝ちだぜ」

第四話／対決！ＶＳ三沢（後書き）

今回の最強カードは『Ｓｉｎ　パラドクス・ドラゴン』。

――――――――

《Ｓｉｎ　パラドクス・ドラゴン》
シンクロ・効果モンスター
星１０／闇属性／ドラゴン族／攻４０００／守４０００
「Ｓｉｎ　パラレルギア」＋チューナー以外の「Ｓｉｎ」と名のついたモンスター１体
このカードがシンクロ召喚に成功した時、
自分または相手の墓地に存在するシンクロモンスター１体を選択して特殊召喚する事ができる。
「Ｓｉｎ　パラドクス・ドラゴン」はフィールド上に１体しか表側表示で存在できない。
フィールド上に表側表示で「Ｓｉｎ　Ｗｏｒｌｄ」が存在しない場合、このカードを破壊する。

――――――――

遊「このデッキのエースカードだな。攻撃力守備力が高く、召喚も容易である点が強い」

ただし、他とは違い、フィールドがＳｉｎＷｏｒｌｄ限定の点に注意だ。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

今回はやけにあっさりと終わったね。

遊「手札がよかったからな」

ちなみに何だったの？

遊「クリッター、サイクロン、激流葬、テラフォーミング、Ｓｉｎトゥルー・ドラゴン、終末の騎士だった」

そ　れ　は　ヒ　ド　イ！！

三沢ご愁傷様だな。

遊「さすがに悪かったと思ってるさ・・・・・」

ーーーーーーーー

今回も見てくださってありがとうございます。

遊「語り部様、感想ありがとう」

これからもがんばって更新していきたいと思います。

遊「誤字・脱字、プレイングミスがあったら教えてくれると助かる」

感想も待ってます。

遊「じゃあ、次回、また会おうぜ！！」

※１１月２２日、Ｓｉｎパラドクス・ドラゴン召喚前後のところ訂正しました。

教えてくださった、語り部様、ｓｉｒａｓｕ様、ゼクスユイ様、ありがとうございます。

第五話／三沢魔改造？（前書き）

すいません。

不慮の事故により更新が一日遅れました。

遊「不慮の事故？」

うん。データがぶっ飛んじゃって、執筆中の小説のデータが全部消えちゃったんだ。

遊「大変だな」

だって、このＰＣスペック意外と低いからね！！

遊「まあ、本編をどうぞ」

第五話／三沢魔改造？

さっきのデュエルでわかるとおり、三沢のデッキは漫画版Ｅ・ＨＥＲＯみたいだ。
こちらは属性ＨＥＲＯが多いデッキだな。

「沼地の魔人王とかってそのデッキに入れてるのか？」
「いや、入れてないな・・・・・。
それよりも、さっきのシンクロ召喚とやらが気になるんだが・・・・・」

あー・・・あれか・・・・・・・・。

「シンクロってのは、チューナーモンスターとチューナー以外のモンスターを墓地へ送ることで、エクストラデッキからレベルの合計が一致する「シンクロモンスター」を特殊召喚できるっていう召喚方法なんだ。
たとえば、このスターダスト・ドラゴン。こいつはレベル合計が８になるようにすれば召喚できる」
「・・・な！？それなら１ターン目から強力すぎるモンスターを出せるじゃないか！！」
「そういうことだ・・・・・。
余ってるから、沼地の魔人王と、相性のいい・・・そうだな、デブリ・ドラゴンをやるよ。
シンクロは・・・余ってて使わないのならなんでもいい」

正直言って、Ｓｉｎとそのほかの２つのデッキ以外は使わないからな。
というか、使えない。

・・・待てよ？いっそのこと持ってるＥ・ＨＥＲＯ全部渡しちまうか？
たぶん、一枚だけのはないだろう。

「あ、中に入ってるＨＥＲＯも全部やるよ」
「いいのか？随分と太っ腹じゃないか」
「何・・・・使わないからな・・・・・そんな箱に入れとくより、使える奴に渡したほうがカードも喜ぶってことだ」
「・・・とんだデュエリスト魂だな」
「気にするな・・・・使えるのは氷結界の龍トリュシーラだけか・・・・。
まあ、シンクロはそんなもんか・・・・・」

そういって俺は、手元にあったトリュシーラと沼地の魔人王とデブリ・ドラゴンを3枚ずつ手渡した。

「本当にいいのか？」
「いいったら、いいの。むしろもらってくれ」
「・・・そうか？じゃあ、遠慮なくもらっておこう」

本当に、三沢はいい奴だな。
特に理由もなく信じてくれるし。

「デッキ、改造するか？」
「そうだな・・・・・」

とりあえずは、三沢のデッキを改造することにした。
・・・というか、三沢って意外に強いんだな。もう一回やったら3回目で負けたよ。（１０回中）

第五話／三沢魔改造？（後書き）

ミニドラマ／デュエル後

「遊夜のデッキって本当にひどいよな」

「なにがだよ？」

「シンクロはいっててもつかえないのが多いし、融合にいたっちゃ絶対に使えないじゃないか」

「・・・気にしたら負けだろ」

「しかもさっきの手札は何だ！？あれじゃあ勝てないだろ！！」

「・・・・・まあ・・・不慮の事故だ・・・・」

・・・続かない。

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

今回で三沢のデッキが異常に強くなりました。

遊「Ｖ・ＨＥＲＯやらＭ・ＨＥＲＯやらも渡したからな」

プラスでシンクロである。
むしろチート化したかもしれん。

遊「普通に今なら負けるだろ・・・・大抵の奴は」

だろうなｗｗ

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

遊「今回も見てくれてありがとう」

なすび様、ゼクスユイ様、ｓｉｒａｓｕ様、語り部様、感想ありがとうございます。
プレイングミスも訂正させていただきました。

遊「次回もまた会おうぜ。
　感想なんかもドシドシ送ってくれよ！」

ではノシ

第六話／ＶＳ十代　前編（前書き）

今回は十代君とのデュエルで前編後編でわかれております。
そして、序盤でオリキャラが二人出てきます。

遊「なんか濃いな・・・・・」

気にしたら負けだよ。
では、本編どうぞ。

第六話／ＶＳ十代　前編

？？？ＳＩＤＥ

試験のとき・・・・あの人はＳｉｎを使っていた・・・・・。

「結城遊夜・・・・・」

原作にはいなかった異常（イレギュラー）。

多分彼も転生者だろう。

私は俗に言うトリッパーという奴だ。

前世では地味なオタク高校生だったが、気が付いたらこの世界にいた。

親などはいなく、ずっと一人でいて、誰にも興味を持つことはなかった。

これは前世からである。

「結城、遊夜・・・・・・・」

気になる・・・。彼のことが・・・凄く・・・・・・。

いったいどんな人なんだろうか・・・・・。楽しみだなぁ・・・・・・。

？？？ＳＩＤＥ　ＯＵＴ

？？？ＳＩＤＥ

よう！この作品を見てる皆！転生オリ主のキラ・不同だ。
実は俺は俗に言う転生者という奴で、前世はただのデブオタだった。
だが今は銀髪オッドアイだぜ！
遊戯王の世界だと知ったときは微妙な気分だったがよく考えるとこの世界も美少女が多いってことに気が付いた。
明日香とかレイとかな・・・・・・。
フフフフフ、彼女たちとの甘い生活を考えているだけで気分がよくなる。
待ってろよ、俺のハーレム人生！！

不同ＳＩＤＥ　ＯＵＴ

遊夜ＳＩＤＥ

・・・何か凄くいやな予感がする。
・・・・・まあ気にしたら負けか。

「お～～～～～～～い！！遊夜～今度こそデュエルしようぜ～！！」
「ん・・・・・？十代か。まあ、約束してたからな、いいぞ」
「よっしゃ、じゃあ放課後レッド寮前まで来てくれよ！」
「ん、わかった」
放課後にレッド寮ね。了解了解。
「・・・君も挑まれたのか」

「おう、三沢。元気か？」
「いや、あの後渡されたカードで組んだデッキを回したり戦術を考えていたら寝過ごしてしまってね。
実はまだ眠いんだ」
「・・・それは大変だな」
「君も放課後レッド寮に行くのだろう？俺も一緒に行くよ」
「わかった」

三沢も誘われたのか・・・・・。
十代って本当にデュエルが好きなんだな。
放課後か・・・・・・。本当に待ち遠しいな・・・・・。

～放課後～

あの後は普通に時間が過ぎ放課後。
出来るだけデッキも調整したので大丈夫・・・・・・のはずだ。
正直言って十代のチートドローは俺の予想を大幅に上回るはずだ。
何とかしないと勝てる確立は大幅に下がる。

「まあ・・・・やるだけか」
「お！来たな、遊夜！デュエルだ！！」
「ああ・・・準備はいいか？」
「バッチリだぜ！！」
「よし、いくぞ・・・・・」

「「決闘(デュエル)！！」」

十代：４０００
遊夜：４０００

「先行は俺がもらうぜ！俺のターン！ドロー！」

十代が先行か。・・・一体何を引いたんだ？

「俺は融合を発動！手札のＥ・ＨＥＲＯウィングマンとＥ・ＨＥＲＯバーストレディを融合して、
Ｅ・ＨＥＲＯフレイム・ウィングマン（攻２１００／守１２００）を召喚！」
「な！？いきなり正規の融合召喚！！？」

いくらなんでも・・・いや、知っていても納得は出来ない。
そんな簡単に手札に揃ってたまるものか。
でも、流石十代と言うべきであろう。その無理を何処かへ飛ばしてしまうのだから。

「カードを伏せてターンエンドだ」

十代

ＬＰ：４０００
手札：２枚
場：モンスター：Ｅ・ＨＥＲＯフレイム・ウィングマン　×１
　伏せカード：１枚

「っく！俺のターン、ドロー！」

引いたのはＳｉｎブルーアイズ。
今回はコイツか。
手札にあるのは歯車街・・・・よし！

「俺はフィールド魔法歯車街を発動！」

辺りが屋上に歯車の付いた家が並ぶ街に変化した。

「またフィールド魔法か！！今度は何を見せてくれるんだ？」
「まあ、見てな！
俺はデッキから青眼の白龍（ブルーアイズ・ホワイトドラゴン）を除外してＳｉｎ青眼の白龍（ブルーアイズ・ホワイトドラゴン）（攻３０００／守２５００）を特殊召喚！！」
「ぶ、ブルーアイズ！？」
「そうだ。このカードでお前のＥ・ＨＥＲＯフレイム・ウィングマンを攻撃！滅びの爆裂疾風弾（バーストストリーム）！！」
「だけど！罠発動！ヒーローバリア！自分フィールド上に「Ｅ・ＨＥＲＯ」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、相手モンスターの攻撃を１度だけ無効にする」
「っち！俺はカードを伏せてターンエンドだ」

遊夜

ＬＰ：４０００
手札：２枚
場：モンスター：Ｓｉｎ青眼の白龍（ブルーアイズ・ホワイトドラゴン）　×１
　伏せカード：２枚

「俺のターン、ドロー！

遊夜、ヒーローには相応しい舞台があるんだぜ！俺は摩天楼―スカイスクレイパーを発動するぜ」

俺の場のフィールドが壊れ、ヒーローの舞台が出来る。

「この瞬間、俺は歯車街の効果とＳｉｎ青眼の白龍（ブルーアイズ・ホワイトドラゴン）の効果を発動！
デッキから古代の機械巨竜（アンティークギア・ガジェルドラゴン）（攻３０００／守２０００）を特殊召喚！
そしてＳｉｎ青眼の白龍（ブルーアイズ・ホワイトドラゴン）は場のフィールド魔法が破壊されたとき破壊される！」

「っへ！でも倒すぜ！フレイム・ウィングマンで古代の機械巨竜（アンティークギア・ガジェルドラゴン）に攻撃！スカイスクレイパー・シュート！！」

「その瞬間！速攻魔法リミッター解除発動！」

Ｅ・ＨＥＲＯフレイム・ウィングマン　２１００→３１００
古代の機械巨竜（アンティークギア・ガジェルドラゴン）　３０００→６０００

「っく！」

十代　４０００→１１００

「俺はカードを伏せてターンエンド」

「このターンのエンドフェイズ時にリミッター解除の効果でガジェルドラゴンは破壊される」

十代
ＬＰ：１１００
手札：１枚
場：モンスター：なし
　伏せカード：１枚

遊夜
場：モンスター：なし
　伏せカード：１枚

これで場はほとんどなくなった。

「俺のターン、ドロー！
　俺は１０００ポイントのライフを払い、伏せカードスキルドレインを発動！」

遊夜　４０００→３０００

「俺はエクストラデッキのサイバーエンドを除外してＳｉｎサイバー・エンド・ドラゴン（攻４０００／守２８００）を特殊召喚！
　スキルドレインで自壊効果は無効化される！
　そして、俺は2枚目の歯車街を発動する」

これが今の最高の布陣だ。

「バトル！　Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴンでダイレクトアタック！！」
「この瞬間にリバースカード攻撃の無効化！これでこのバトルは終了だぜ」
「っく！ターンエンドだ」

次回に続く。

第六話／ＶＳ十代　前編（後書き）

今回のキーカードは『スキルドレイン』。

――――――――

《スキルドレイン／Ｓｋｉｌｌ　Ｄｒａｉｎ》
永続罠
１０００ライフポイントを払って発動する。
このカードがフィールド上に存在する限り、
フィールド上に表側表示で存在する効果モンスターの効果は無効化される。

――――――――

遊「こいつは強力だな。Ｓｉｎの効果を無効にするから、攻撃抑制、自壊能力とかを無効に出来るからな」

こいつが出てくるとＳｉｎと別なモンスターの攻撃が可能だからね。

遊「ただ、他の効果も無効化される点に注意だな」

ーーーーーーーーーーーーーー

今回も荒れたな。

遊「まさか、あそこで止められるとは思わなかった」

次回に期待だね。

遊「勝てるといいが・・・・・」

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

今回も見てくださってありがとうございました。

遊「ｓｉｒａｓｕ様、ゼクスユイ様、感想ありがとうございます」

使ってほしいデッキ、コラボなんかはいつでも受け付けています。

どちらも番外扱いになりますが、必ずやらせていただきます。

遊「誤字・脱字、プレイングミスなどの訂正、感想なんかも待ってるぜ！」

次回もお楽しみに！！

第七話／ＶＳ十代　後編（前書き）

前回に引き続きＶＳ十代君です。

遊「楽しんでみていってくれよ」

では、本編へＧＯ！

第七話／ＶＳ十代　後編

前回までの状況

十代
ＬＰ：１１００
手札：一枚
場：モンスター：なし
　伏せカード：なし

遊夜
ＬＰ：３０００
手札：０枚
場：モンスター：Ｓｉｎサイバー・エンド・ドラゴン
　伏せカード：なし
　魔法・罠：スキルドレイン

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

「俺のターン、ドロー！
なあ、こんなデュエルが出来るなんて楽しくてたまらないぜ！」

おいおい・・・この状況を楽しむデュエリストだぁ？
アニメでも見たが信じられないな。俺なら諦めるぜ。

「俺は天よりの宝札を発動！お互い手札が６枚になるようにドローするぜ！」

まさかのここでアニメ効果版のカードですか！？
これはやばいぞ・・・・・。

十代　１枚→６枚
遊夜　０枚→６枚

「俺はサイクロンでそのスキルドレインを破壊するぜ！」
「な！？」
「そして俺は強欲な壺を発動して２枚ドロー！天使の施しを発動して３枚ドローして２枚捨てる。
・・・これでそろったぜ！」
「っく・・・俺は手札断殺をチェーンして発動！」

十代　６枚→４枚→７枚
遊夜　６枚→４枚→６枚

「俺は手札から融合回収を発動！ウィングマンと融合を手札に加えるぜ！
更に貪欲な壺を発動！フレイムウィングマン、バーストレディ、スパークマン、クレイマン、バブルマンをデッキに戻してシャッフル、そして２枚ドロー！
行くぜ遊夜！融合発動！手札のウィングマンとバーストレディを融合してフレイム・ウィングマンを召喚！！」

場に再び、十代のフェイバリットカードが呼び出される。

「そして２枚目の融合を発動！フレイム・ウィングマンと手札のスパークマンを融合してシャイニング・フレア・ウィングマンを召喚！！」
「な！？２枚目の融合だと！？」

「ああ、お前の手札断殺のおかげで引けたぜ」
「だ、だが、その攻撃力では俺のＳｉｎサイバー・エンドには届かない！」
「さっきも言ったけどな、ヒーローにはヒーローに相応しい舞台があるんだよ・・・フィールド魔法、摩天楼―スカイスクレイパーを発動！！」

舞台が、またあのビル街に変わっていく。

「さっきと同じように効果でＳｉｎモンスターには消えてもらうぜ！」
「だが、そうはさせない！俺は手札のＳｉｎトゥルース・ドラゴンの効果を発動！自分フィールド上に表側表示で存在する「Ｓｉｎトゥルース・ドラゴン」以外の「Ｓｉｎ」と名のついたモンスターが戦闘またはカードの効果によって破壊された場合、ライフポイントを半分払う事で、このカードを手札または墓地から特殊召喚できる！
　俺はライフを半分払い、Ｓｉｎトゥルース・ドラゴンを特殊召喚！！」

遊夜　３０００→１５００

俺の場に、黄色っぽい色をした体を持つ、このデッキの真のエースモンスターが現れた。

「攻撃力５０００・・・・・？」
「ああ・・・俺のデッキの真のエースにて切り札だ。
　見せてみろ十代。どうやってコイツを超えるのかを」
「っく・・・・クレイマンを守備表紙で出して、ターン・・・エンドだ・・・・・」

流石にコイツの前では何も出来ないか・・・・・。
だが、余裕は見せない。コイツの前で余裕を見せてはいけない。
「今回は勝たせてもらう！俺のターン！ドロー！」
引いたカードはＳｉｎパラレルギア。
手札にはあれがある・・・いける！
「俺はメテオ・ストライクをＳｉｎトゥルース・ドラゴンに装備！
これで終わりだ！Ｓｉｎトゥルース・ドラゴンでクレイマンを攻撃！」
十代よ安心しているが、終わりだといっただろう？
「メテオ・ストライクの効果発動！装備モンスターが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える！」
「な！？クレイマンの守備力は・・・・・」
「２０００、よって超えた分の３０００ポイントのダメージを受けてもらう！」
「そんなのありかよ～」
「行け！Ｓｉｎトゥルースドラゴン！真実の終わり（トゥルーエンド）！！」
「うわぁあああああああああ！！」
十代　１１００→－１９００
「今回は俺の勝ちだな」
「あんなの反則くさいぜ～。
・・・でもまあ、」

「お前流に言えば・・・ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ？」
「セリフ取るなよ～！」
「悪かったって・・・でも楽しかったぜ」
「ああ、またデュエルしようぜ！」
「ああ」

こうしてこのデュエルは俺の勝利で幕を閉じたのである。
でもまあ、あのときの天よりの宝札で来なかったら負けてたな。

「まあ・・・・いいか」
「うん？何がだ？」
「気にするな・・・ただの独り言だ」
「そうか？」

・・・ただ、こんなデュエルも・・・・・・・悪くは無いかもな。

俺は、平和で少し騒がしいな日常のなかで、ふとそう思った。

第七話／ＶＳ十代　後編（後書き）

今回の最強カードは『Ｓｉｎ　トゥルース・ドラゴン』だぜ！！

――――――――

《Ｓｉｎ　トゥルース・ドラゴン》
効果モンスター
星１２／闇属性／ドラゴン族／攻５０００／守５０００
このカードは通常召喚できない。
自分フィールド上に表側表示で存在する「Ｓｉｎ　トゥルース・ドラゴン」以外の
「Ｓｉｎ」と名のついたモンスターが戦闘またはカードの効果によって破壊された場合、
ライフポイントを半分払う事でのみこのカードを手札または墓地から特殊召喚できる。
「Ｓｉｎ」と名のついたモンスターはフィールド上に１体しか表側表示で存在できない。
フィールド魔法カードが表側表示で存在しない場合このカードを破壊する。
このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、
相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを全て破壊する。

――――――――

遊「俺のデッキの真のエースカードで切り札だぜ！」
攻守５０００の上、モンスターの破壊効果を持つ文字通り最強のモンスターだ。

遊「ただ、召喚にはトリガーとなるＳｉｎモンスターの破壊とライフが半分必要だ」

その分、上で言ったような破格の能力を持っているがな。

遊「流石は俺のエースだぜ！！」

ーーーーーーー

今回はギリギリだな。

遊「ああ、本当に強いな、十代は・・・・・。
　っていうか、あそこでシャイニング・フレア・ウィングマンを出していいのかよ！？」

大丈夫だ・・・・ミラクルフュージョンを出してないからな・・・・・・多分。

遊「多分かよ！？」

ーーーーーーー

今回も見てくださってありがとうございます。

遊「ｓｉｒａｓｕ様、ＦＯＯＬ様、深淵様、感想ありがとうござい

ます。
　こんな作者の作品に感想・訂正を書いてくださって」
ｓｉｒａｓｕ様、デッキのほうは必ず使いますので、ご了承を。
その他使ってほしいデッキ、コラボなんかはいつでも受け付けています。
どちらも番外扱いになりますが、必ずやらせていただきます。
遊「誤字・脱字、プレイングミスなどの訂正、感想なんかも待ってるぜ！」
次回もお楽しみに！！
ーーーーーー
普通はプレイングミスなんかの訂正を待つのっていやじゃないかな？
遊「実際２連続であったんだから仕方ないだろ？」
面目もございません・・・・。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6304y/

遊戯王GXの世界に転生した物語（意外とそのまんまな題名）

2011年11月24日20時54分発行